

# NSPA JAPAN

The Natural Science Publishers' Association of Japan

## 自然科学書協会会報

発行人・本郷允彦  
編集・広報委員会



[自然科学の時間 - 挑戦と発展]

パイオニア—未知の領域に挑む

日本大学名誉教授 平山善吉

国際ブックフェア見聞録

東京国際ブックフェアの印象

北京国際ブックフェアに参加して

■専門委員会報告

2008 10/15 NO. 4

<http://www.nspa.or.jp/>

社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 文化産業信用組合内 TEL 03-3292-8281

人類が地球上に誕生してどのくらいになるのだろうか。この間、人々は多くの文化を築き、創造してきた。その結果、われわれは富を得、幸福を享受したのである。この過程において富の格差が生じ、環境の破壊など目に余る弊害も多いのは事実だ。こうした富と弊害をもたらしたのも人類であり、その英知だったのである。そしてこの英知こそ、未知の領域あるいは分野を切り開いたパイオニアであり、これを駆り立てたそのスピリットである。

私は、専門の建築以外に、わが国の南極観測事業にかかわり、趣味として山に登り、自然環境の保全にも務めてきた。こ

### [自然科学の時間 - 挑戦と発展]

#### パイオニア—未知の領域に挑む

日本大学名誉教授 平山善吉



南極昭和基地建物の設計と建設に携わり、1983年に南極地域観測隊と樺太犬タロ、ジロとの実話を題材として大ヒットした映画「南極物語」の製作に協力された平山教授に、ご自身の経験から、困難を越えて未知の領域へ挑む“パイオニア”たちについて語っていただきました。

のような立場から、これまで経験した中で接したパイオニアについて思い出すままに記してみたいと思う。

建築においては、永い間『スクラップ・アンド・ビルド』という考え方が建築界全体を支配し、やがて、バブルという好景気をもたらした。しかし、バブルは破綻し、今ではその反動ともいえる『サステイナブル』という考え方が芽生えている。

これは、『環境にやさしい建築』という考え方であり、工法である。この結果、環境にやさしい新工法が考案され、新材料が開発された。これらの成果として二〇〇年住宅や二〇〇年住宅などという考え方や、商品が登場したのである。

#### 南極—探検から観測へ

わが国は今から半世紀以上も前の一九五七年、国際地球観測年(以下IGY)に参加し、南極に観測隊を送った。これは世界の科学者が、同じ目的を持って、その同じ時(年)に地球の諸現象(謎)を観測し、その謎(地球の科学的な種々の物理現象)を解き明かそうと始めた事業である。

それまでに私たちの知り得る南極は、スコットとアムンゼンによる南極点への一番乗りについて書かれた『スコット最後の遠征』(London, 1913)とチェリー・ガロードによって書かれた『世界最悪の旅』(London, 1922)などの文献が主なものであった。私は学生ころ、これらの本を貪るように読み、未

開の地に熱き血を沸かせたものである。

前者は、アムンゼンに一番乗りを奪われ、失意の帰途、基地を目前に全員が遭難死する探検の記録であると同時に、隊員たちによって行われた科学調査の報告でもある。また後者は南極の厳冬に行われた調査旅行の記録である。当時、IGYは、五〇年に一回の周期で開催されており、その開催期は私が大学を卒業する年でもあった。このIGYの観測は、南極が宇宙に開かれた窓として、地球の諸現象の観測に重要な地域とされたからである。

#### 南極観測の成果

地球環境の激しく変動する現代では、IGYは国際極年(IPY)として二五年に一度行うこととなり、今年から来年にかけて行われることになっている。

これらの南極での事業は、今でこそ観測隊といわれているが、当時は、探検隊といわれていた。想像を絶する寒さと強風、厚い氷に覆われていた南極は、『白い大陸』ともいわれ、地形すらも確定できず、その面積は日本の四〇倍ともいわれた時代である。現在では、その白い大陸は、氷の下の地形図も完成し、日本の三六倍ということまでわかったのである。これも観測隊の多様な調査の賜といえるだろう。

この観測隊こそ、未知の世界に挑む挑戦者であり、パイオニアであった。こうしたパイオアたちの活躍によって、新しい建

築工法による基地の建設、越冬という文明から隔絶された世界における生活様式と食料の開発、低温と強風、そして低酸素(標高約四、〇〇〇メートル)の中でも自由に動き回ることのできる雪上車などが開発されたのである。

この結果、建築においてはプレハブのシステムを確立し、今日のプレハブ建築隆盛の礎を築いた。また、食料においては、即席ラーメンと冷凍食品を開発し、食文化の改革をもたらした。そして、機械部門において開発された雪上車は、南極の過酷な条件に耐え、昭和基地から極点まで往復四、〇〇〇キロに及ぶ未踏の大陸横断旅行を成し遂げたのである。

このように、南極観測によって開発されたさまざまな設営工学的成果は、わが国の産業界にフィードバックされ、今日の繁栄を築いたのである。

これらの設営工学的成果に対し、観測隊による科学的成果は、オーロラの発生機構の解明と、オゾンホールの発見、あるいは隕石の集積メカニズムを想定して多くの隕石を収集するなど、その地球物理学的な成果は『南極の科学Ⅰ〜Ⅸ』(古今書院一九八二〜八四)としてまとめられ、世界から高く評価されている。

## 地球誕生の謎と宇宙への窓

そして現在では、これらの成果を踏まえ、さらなる未知の領域への挑戦がなされてい

る。そのうちの二つが収集した隕石の研究から宇宙生成の謎と、地球誕生の秘密を探ろうというものだ。収集した隕石の中には月隕石、あるいは火星隕石などの他、いずことも知れぬ宇宙のどこから来た塵(宇宙塵といわれている)などもあり、わが国が採集した隕石の数は一六、二〇〇個以上を数え、目下世界最大の隕石保有国である。

また、南極大陸では、地形、あるいは地質の研究が進み、かつて地球上に存在したといわれている超大陸、ゴンドワナ大陸(東南極大陸を含む、アフリカ、南アメリカ、インド、オーストラリアなどが一つの大陸となったもの)の姿も現実のものとなり、大陸移動説の研究にも大きな成果をあげ、南極大陸の随所に、その証拠となるべき事実も発見されている。ちなみに昭和基地付近はかつてスリランカと陸続きで、それが分断されたといわれ、両者に同一の寶石が発見され、また地形の重ね合わせもできるようだ。

これらの成果の中で注目されるのが、三、〇〇〇メートルに及ぶ氷床の深層掘削である。これは、昭和基地から南に約一、〇〇〇キロ離れた標高約四、〇〇〇メートルのドームふじ高原で始められ、わが国は一九九四年ここに基地を作り、三年の歳月をかけてこの氷床をくり抜き二、五〇〇メートルまでのボーリングに成功し、その後二〇〇三年から第二次掘削を開始し、二〇〇七年氷床の下の大陸表面に至るまでのボーリングを行い、その氷

床のサンプリングに成功したのである。

この氷床の調査の結果、ほぼ一〇〇万年にさかのぼって地球環境の復元に成功した。現時点で得られた地球の古環境の復元から、この一〇〇万年の間に、地球上には三度の氷期(現在は間氷期といわれている)が読み取れ、これからの地球環境を予測する資料などが収集されつつある。

## パイオニアとしての登山

私はこれらの仕事に立ち会うことができながらも身近なことでは、登山を趣味とした学生時代から日本の山はもろろんのことヒマラヤにも足跡を押し、パイオニアとしての喜びを楽しんできた。これには南極でスコットらの記録に興奮したように、山にはJ・ハントによる『エベレスト登頂』(London 1963)がある。

英国は一九二二年にエベレストに最初の遠征隊を送り、以来九回に及ぶ挑戦の末、一九五三年未踏のエベレストの頂に立つという栄誉を勝ち取ったのである。

このように、未踏の山の頂に立ち、あるいは、未知の領域に足跡を印すことを私たちは無上の喜びとしてきた。そして、このような山、あるいは、地域は現在でもまだたくさん残されている。たとえば、先に触れた世界で最も高いエベレストにはシオン中二〜三〇〇人が登っている。これらはいわゆる一般ルートで、エベレストにはこのルートの他に困難な未踏ルートがある。

登山では、この未踏ルートの開拓の他、季節を問わない登り方、シエルパを伴わない登り方、あるいは酸素を用いない登り方などがあり、こうした登り方に挑む人たちもまたパイオニアである。

## 地球の未来のために未知の領域へ

未知の領域や未踏の頂について触れたが、地球上には知られざる未知の世界や分野あるいは解明されていない諸現象などまだまだたくさん残されている。これらは現在ほとんど開拓され、かつては想像もできなかった新事実が発見され、その成果は不治の病の治療など身の回りの出来事にまで広がってきている。しかし、その一方で解明されない未知の事象も増えている。

私たち人類がさらなる豊かな幸を築くためにも現代に生きる私たちに、この未知の世界を切り開いていかなければならない責務がある。そのためにはさらなるパイオニアの出現が望まれる。私たち個々がパイオニアの存在を意識することで、地球環境はよりよいものに変わっていくに違いない。

■平山善吉(ひらやま ぜんきち)

日本大学名誉教授。国立極地研究所顧問。(社)日本建築学会名誉会員。(社)日本山岳会名誉会員。南極観測隊に第一次〜三次まで隊員として参加。一九九六年、南極昭和基地建物の設計と建設に関する一連の業績で、日本建築学会賞を同年、未踏のエベレスト北東稜登山隊・総隊長として朝日スポーツ賞(朝日新聞社)を受賞。二〇〇二年には、最高裁判所長官より表彰状と金杯を受ける。

## 国際ブックフェア見聞録

### ■東京国際ブックフェアの印象

第一五回東京国際ブックフェアが、七月一〇日(木)から一二日(日)まで東京ビッグサイト・西棟で開かれた。初日の印象では前回よりも盛り上がりに欠けていた。テーパーカットに今回も秋篠宮ご夫妻がご臨席され、その後、ご夫妻は当協会のブースにも寄られた。殿下が水棲動物や魚類の書籍を中心に何種類かを手にとって、紀子様で説明する微笑ましい姿が今年も印象的だった。

今回の出展社数は七六三社(国内六〇八社、海外三〇カ国・地域から一五五社)で、自然科学書、人文・社会科学書、児童書、編集制作プロダクション、学習書・教育ITソリューション、デジタルパブリッシングの六つの専門フェアに分かれて展示された。その中で、当協会のブースは、昨年よりも通路一つ奥に設けられ、人の流れ



から見てあまりにも場所が悪い。また、フェアの全小間数約六〇〇小間のうち自然科学書フェアは二・五小間(当協会は三・五小間)で、自然科学書フェアと銘打つ割りにはインパクトが弱かった。

出版社の出展が年々少なくなり、編集プロダクション、印刷、学習・教育ITソリューション、デジタルパブリッシングなどの周辺が増えている。小間割図から想定すると、約六〇〇小間のうち、自然科学書、人文・社会科学書、児童書、総合出版社の本来の出版社の小間数は約四〇パーセントで、六〇パーセント強が周辺からの出展である。ブックフェアという以上、逆でないかと来場者も期待はずれでは、と思っていたところ、書店にない本が探せると思つて来たが、出版社が減り展示商品も少ないので来年は来ない、という声も聞かれた。

来場者は過去最高の六九、三七二名(前年比九七パーセント)ということであるが、四日間のうち三日訪れてみて自然科学書に関係した来場者は減つた印象だ。自然科学書協会ブースに来た方の入場カードを見ると、大学関係者、技術関係者、医学関係者など自然科学系は少なく、一般が大半であった。それでも、当協会ブースでの販売金額は約一三九万円で、ほぼ昨年並みであったようだ。

年々、出版社以外の出展が増え続けければ、本を求める人はますます遠のくだろう。

(S)

### ■北京国際ブックフェアに参加して

八月八日から二四日までの二六日間、北京オリンピックが開催。国内外ではさまざまな問題が生じたが、全日程無事終了し閉幕した。また九月六日からはパラリンピック開催。この間の九月一日から四日間の日程で第一五回北京国際ブックフェアが開催された。五輪の関係もあり、会場はここ三年ほど続いている中国国際展覽センターから天津国際展覽センターへと変更となった。

日本事務局からの報告によると、今年の世界五一カ国から二二九〇社が参加。中国国内出展社数は五二〇社と、昨年より一〇社ほどの減にとどまったが、海外出展社数は八七〇社で昨年の二二八二社から大きく減少した。総ブース数も前年比九四パーセントほどに減つた。ただ日本は二〇六社で昨年の一四九社を大きく上回つた。また版權取引総数は二、四五一件、入場者数は二〇〇、〇〇〇

人とこちらも昨年を下回る結果となった。会場面積が昨年より一、〇〇〇平方メートル広がり、三五、〇〇〇平方メートルとなつたが、この数値結果はやは

り北京と天津という地域差によるものなのであろうか。

会場一階は中国ゾーン、正面入口からの来場者を歓迎するような趣向を凝らした内装はさすがである。二階は今回の主賓国であるギリシャとスペインのゾーン、アメリカ、ロシア、ヨーロッパのゾーン、日本、韓国などのアジアゾーンの三つに分かれていた。アメリカ、ヨーロッパのブースは日本ブースに比べ装飾など華やかで、多くの人でにぎわっていた。東京国際ブックフェアでは決して見られない光景だ。自然科学書協会共同ブースでは今回二七社、二二三点の出展、昨年の二二社、一五四点を上回る書籍が展示されていた

今年も分野ごとの目録が展示され、来場者が手に取り、持つて帰る姿も見られた。また今回、五月に発生した四川省大地震を受けて、運営会社からの要請により、日本ゾーン内に地震関連書籍の共同ブー



会場外観



自然科学書ブース



地震関連書籍ブース

## 「専門」委員会報告

### ●総務委員会

七月一七日開催の第五八期第一回定時総会には多数のご出席を頂くとともに、議事進行へのご協力を賜りましたこと御礼申し上げます。

第五七期の決算書より、最終的なとりまとめ作業を顧問公認会計士に委ねるよう改めた結果、より客観性の高い決算処理が実現したものと考えております。また、総会後の懇親会も盛会のうちに終えることができましたことをご報告いたします。

総務委員会では、その機能を充実させるために、副委員長として新たに恒星社厚生閣の片岡一成社長に加わっていただき

副委員長二名の体制が実現しました。また、七月二十八日には総務委員会ホームページ・ワーキンググループの第一回のグループミーティングを開催し、今後のメンバーの増強を含めた組織作り、ホームページの方向性および運用方法、コスト削減などについて意見交換ができました。さて、今期は和文会員名簿を作成いたします。つきましては、お手元に会員名簿の記載内容確認の書類をお送りしております。ご協力お願いいたします。

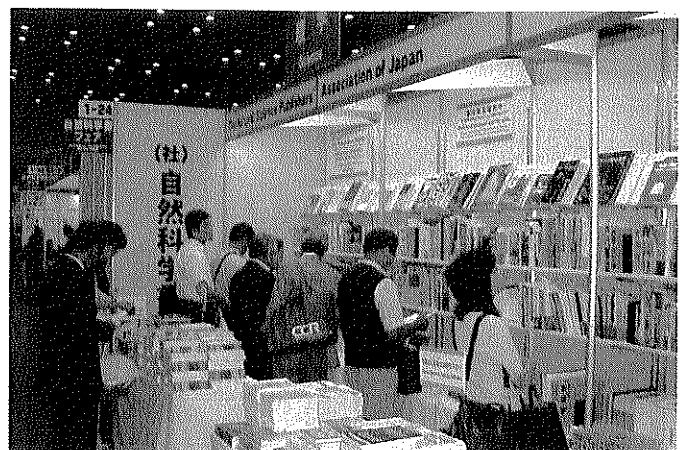
(委員長 飯塚尚彦)

### ●販売・出展委員会

東京国際ブックフェア二〇〇八を振り返って第一五回東京国際ブックフェア(三訂2008)は、七月一日(木)～三日(日)東京ビッグサイト西展示場にて開催されました。主催者の発表では、来場者が昨年より約一〇パーセント増加して六万人を突破した模様です。

当協会ブースへの出展参加社は六二社、出展の総冊数は二、六三三冊で昨年の二、七二〇冊には及びませんでした。販売成績は、総売上冊数は四五〇冊で昨年の四二二三冊より若干増加しましたが、総売上金額は一、三九六、一六九円と昨年の一、四四四、二〇〇円より少し減少しました。売上冊数が増加したのに売上金額が減少したのは、平均単価が下がっていることによるものでしょう。

今年の東京国際ブックフェアでは、当協



東京国際ブックフェア自然科学書ブース

会として、いくつかの新しい試みを取られました。その一つは、広報委員会によって出展図書一覧を会報に掲載して参加者に配布したことです。会期中の販売増を希つての試みですが、このリストによる追加発注を期待したいところです。二番目は、協会会員社の代表的な出版物を各社二、三点出品してもらい平台で展示したことです。これについては反省会で、従来からの面陳の出版物との区別が必ずしも明瞭でなかったとの指摘がありました。また、代表的出版物の理由を出展社のコメントで付したらどうか、などの意見もありました。三番目は、海外からの版權照会にむけ通訳のボランティアを会員社のご協力に

スが出展された。名門校である北京大学、清華大学が、日本の地震関係の書籍の翻訳、研究を進めることになったということだが、ブース内に立ち入る人の姿がよく見られ、好評の様子であった。つい先日の八月三〇日にも四川省南部でマグニチュード六・一の地震が発生し、三〇名ほどの方が亡くなられた。広大な中国全土では地震の起こらない都市も多く、大多数の市民の中では地震に対する意識はまだ低いと思われるが、国としては本格的な対策を進めることになるであろう。今後、建築物の免振技術など先端をいく日本の関連技術書籍は注目を浴びるのではないだろう。

来年の第一六回北京国際ブックフェアは、九月三日から九月七日まで、会場は昨年まで開催されていた北京市の中国国際展覧センターに戻って開催される。

(コロナ社 秋浜直治)



総会風景

より配したことです。顕著な成果があったとはいえませんが、国際ブックフェアとしてはさらに充実させる必要があるかと思えます。

委員の反省会では、出品社の販売部員の判断で一品目を五冊売れ筋商品として出品し、すべて完売したという報告もありました。また現場でPCによる検索ができるようにしたとの提案もありました。

自然科学書系の図書館や大学関係者への更なる積極的な参加への呼びかけと併せて、多くの意見や反省点を来年のフェアに生かすために、販売の戦略的な取組み、版權の積極的な照会などへの対応という課題を抱えています。

(委員長 平田 直)

### ●著作・出版権委員会

かねてより当委員会で検討が続けられてきた、文章や図版の転載許諾に関する自然科学書協会としてのガイドラインが、九月一八日の定例理事会で正式に決まりました。これは今年一月に会員各社に案を送りし、それに対する会員社からのご意見を受けて、再度当委員会で討議を重ねてまとめられたものです。このガイドラインは、転載許諾を考える際の基準(目安)として自然科学書協会が定めたものであり、会員各社の判断に影響を与えるものではありません。それでも、このようなガイドラインができたことは、今後この問題を考えていく上で思考の準拠が存在すると

いう意味で、一歩前進といえるのではないのでしょうか。そこで、このガイドラインの内容を知っていただくために、一月下旬に説明会を開催する予定です。会員社様には別途、案内をお送りしますので、ふるってご参加ください。

次に複写権にかかわる動きですが、新出著協(有限責任中間法人「出版者著作権協会」)が二〇〇八年九月三日に設立登記も終え、正式に発足しました。今後、JCLS(株)日本著作出版権管理システムとの統合などを経て本格的に新しい体制に移行していきます。この秋以降、関係者に向けたさまざまな説明会等も開かれますので、ご注目ください。

また新たに著作権を制限しようとする動きがあります。政府の知的財産戦略本部で二〇〇八年六月に決定された「知的財産推進計画二〇〇八」を背景として、文化審議会著作権分科会法制問題小委員会において、研究開発における情報利用の円滑化のための権利制限について審議が進んでいます。専門的な書籍・雑誌の場合、研究開発に携わる研究者こそメジャーな読者対象です。研究開発を御旗に掲げて広く権利を制限するなどということは許されることではありません。審議の推移を注視しましょう。

(委員長 宮部 信明)

### ●国際委員会

二年ごとに発行してきた英文会員名簿

を七月一〇日(木)からの東京国際ブックフェアに間に合わせる事ができました。「書協」英文名簿と類似のものを当協会でも作る意味、内容の差別化、当協会和文名簿との合併などについて議論の結果、従来通り作り配布する事にしました。着手が遅かったので、今年の東京国際ブックフェアには間に合うか、若干心配しました。が、正路修(メディカル・サイエンス・インターナショナル)・佐藤素美(オーム社)両委員を中心とした精力的な作業もあって、内容を念入りにチェックした上で六月中に発行の運びとなりました。制作費も印刷所に協力(勉強)してもらい、当初予算をかなり下回るものになりました。

従来ですと当委員会報告はこれで終わりというところです。当委員会は委員三名(理事も三名)で構成される小所帯ですが、今年から、当協合理事会で決めた海外でのブックフェアの案内窓口の役割も仰せつかりました。出品の可否・点数の多寡については各社に考えや事情もあろうかと思いますが、当委員会としては、早目の案内に務めていく所存ですので、できるだけ多くの参加をお願いします。

今年の第一五回北京国際ブックフェアは、九月一日(月)から四日(木)まで、天津国際展覧センターに会場を変えて開催されました。今回も日本事務局であるトーハン経由での出品です。当協会会員社の出品は二七社二三点と、前回を大幅に上回るものでした。当協会関連二分野の図

書目録も各五〇冊、合計六〇〇冊が展示されました。来年は九月三日(木)から七日(月)まで北京市の中国国際展覧センターに会場を戻して開催される予定です。

一〇月一五日(水)から一九日(日)までは第六〇回フランクフルト・ブックフェアが開催されます。今年も、出版文化国際交流会の当協会・出版梓会・大学出版部協会共同ブースでの展示です。

(委員長 藤実 彰二)

### ●出版システム研究会

第五八期より情報システム研究会が「出版システム研究会」として、新たな活動を開始することになりました。自然科学分野の出版を取り巻く諸問題に関するすべてのテーマが委員会活動の対象となります。と言ってもこれではあまりに漠としており、担当常任理事を中心に正・副委員長で討議を重ね、「RFタグの可能性」をはじめとするいくつかの試案を得るに至りました。他の出版社団体との共同研修等も視野に入れております。

そのような事情で、委員会の開催自体が遅れておりましたが、一〇月二日(火)に開催の運びとなりました。会員社におかれましては積極的に委員会にご参加のうえ、今後の研修テーマの検討・確定に積極的なご意見をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

(委員長 山口 雅三)

■**文科科学大臣表彰に二件を推薦**

当協会では、科学技術分野の文科科学大臣表彰推薦候補を会員各社より募っておりましたが、今回、科学技術賞科学技術理解増進部門に次の二件を推薦いたしました。(氏名は筆頭者名、敬称略)

- ・『酵素ハンドブック』の出版活動による生命科学の理解増進」株式会社朝倉書店 高原富夫
- ・「五〇年にわたる治療年鑑による臨床医学の理解増進」株式会社医学書院 阪本稔

受賞者の決定は来年春の予定。

■**第五八期理事会・委員会開催一覽**

(二〇〇八年七月～九月)

●**理事会**

- ・七月二〇日(木) 七月臨時理事会／一二～一四時 東京ビッグサイト
- ・七月二七日(木) 七月定例理事会／一五～一七時 日本出版クラブ会館、五八期第一回総会／一七～一八時 日本出版クラブ会館、懇親会／一八～二〇時 日本出版クラブ会館
- ・九月一八日(木) 九月定時理事会／一五～一七時 日本出版クラブ会館

●**専門委員会**

- ・七月二日(水) 担当理事会議(決算最終確認)／一三～一五時 文化産業信用組合
- ・七月二日(水) 監事会／一二～一四時 文化産業信用組合
- ・七月二八日(月) 総務委員会／一三～

- ・七月二日(水) 担当理事会議(決算最終確認)／一三～一五時 文化産業信用組合
- ・七月二日(水) 監事会／一二～一四時 文化産業信用組合
- ・七月二八日(月) 総務委員会／一三～

一五時三〇分 文化産業信用組合

- ・七月二八日(月) 担当理事会議(文部科学省提出書類見直し)／一五～一五時三〇分 文化産業信用組合
- ・七月二九日(火) 著作・出版権委員会／一六～一七時三〇分 日本出版クラブ会館
- ・八月二〇日(水) 広報委員会／一六～一七時三〇分 日本出版クラブ会館
- ・九月三日(水) 会費問題検討委員会／一二～一四時三〇分 日本出版クラブ会館

■**第五八期第一回定時決算総会開かれる**

第五八期第一回定時(決算)総会が、七月一七日一七時より日本出版クラブで開催された。

一号議案の第五七期事業報告ならびに決算が、続いて二号議案の会費の値上げの検討開始について、それぞれ全員異議無く原案通り承認された。当日は会員社七〇社から三四名が出席した(委任状三四名)。

■**その他**

- ・八月二五日(月) 新公益法人に関する説明会／一四～一七時 文部科学省東館
- ・七月一〇日(木)～七月三日(日) 東京ビッグサイトに、東京国際ブックフェア2008が開催されて、当協会も協賛し出展した。

【**事務局より**】

◆**住所変更**

- ・株式会社博友社  
旧住所 東京都新宿区揚場町二二七  
新住所 東京都文京区関口一二四一〇

上野ビル

- ・森北出版株式会社  
旧住所 東京都千代田区神田神保町三一  
二 高橋ビル  
新住所 東京都千代田区富士見一四一  
二 九段富士見ビル

■**年末会員集會開催のお知らせ**

当協会恒例の年末会員集會が二月四日(木)一八時より、東京會館(東京・千代田区)二階、ゴールドルームで開催されます。相互交流を深める夕べとして、取次・関連業界の方々が多数出席されますので、会員代表者、各専門委員会委員の皆様に参加をお願いします(会費は一社一五、〇〇〇円)。

〈**会員社HPから協会HPへのリンクを!**〉

当協会のホームページ(H.P.)へのアクセス件数が伸び悩んでいます。これを改善するために会員各社のHPから協会のHP(<http://www.nspa.or.jp>)へリンクを張っていただくことも、有効策の一つです。ぜひ会員社の皆様のご協力をお願いいたします。なお、協会HPから会員社へのリンクはすでに張られています。

〈**当協会会員募集**〉

自然科学書業界の健全な発展のために、志を一にする会員を募集しています。詳細は、協会事務局までお問い合わせください。(社)自然科学書協会・事務局  
TEL 〇三・三三二九二・八二八一  
FAX 〇三・三三二九二・八二〇二

第五七期/第五八期広報委員

- 〈担当常務理事〉 山本 格(培風館)
- 〈委員長〉 曾根良介(化学同人)
- 〈副委員長〉 新谷滋記(工業調査会)
- 森田 猛(緑書房)
- 朝倉誠造(朝倉書店)
- 高杉 昇(家の光協会)
- 長 滋彦(技報堂出版)
- 牛来真也(コロナ社)
- 三宅恒太郎(彰国社)
- 田中久米四郎(電気書院)
- 遠矢良太郎(南江堂)

編集後記

NHK大河ドラマの製作スタッフ間にジレンクがあり、幕末や明治維新時代のものをやると低視聴率になるそうです。理由としては、学校の日本史で幕末までやらないので知識がない、激動の時代なので登場人物が多くてついていけない、などがあるそうです。

今回このジレンクスを破ったのが現在放送中の「篤姫」です。すこぶる視聴率がよく、特に若い女性に人気があるとのこと。キャストینگがいいとか、女性を主人公にしたからとか、いくつか理由があるそうです。

出版業界も本が売れないと思ひ悩んでおりますが、もしかするとそれは勝手な思いこみかも知れません。今回の「篤姫」は宮尾登美子さんの原作をもとにテレビ化している点で、著作物を書籍化しているわれわれと同じ製作者とするならば、作り手の工夫如何によって売上を上げる術は、まだあるのかも知れません。

(M・G)